

没後 100 年・平成 30 年度秋季特別展

田村宗立展

リアリティを
追求した画家

2018年
10月27日[土] ~ 12月2日[日]

南丹市立文化博物館 

〒622-0004 京都府南丹市園部町小桜町63番地 TEL.0771 (68)0081 / FAX.0771 (63)2983

【アクセス】 ◆自動車…京都縦貫自動車道「園部 IC」「八木西 IC」より約 5 分。園部公園駐車場をご利用ください。 ◆電車・バス…JR 園部駅下車、園部駅西口より京阪京都交通バス「八田線」もしくは「園部線」に乗車、「交流会館前」下車すぐ。または、市営ぐるりんバスに乗車、「図書館前」下車すぐ。園部駅から徒歩の場合は約 30 分。

▼開館時間 午前 9 時 ~ 午後 5 時 (入館受付は午後 4 時 30 分まで) ▼休館日 11 月曜日 (会期中の祝日は臨時開館します) ▼入館料 大人 300 円 / 学生 200 円 / 小人 100 円
※ 20 名以上の団体は 2 割引、南丹市内在住・在校の小・中学生は入館無料
※ 身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳・戦傷病者手帳をお持ちの方とその介護者は半額 (手帳を提示ください)
※ 11 月 17 日 (土)・18 日 (日) は「関西文化の目」事業実施のため常設展示のみ見学無料

▽ギャラリートーク (展不芸会関連事業)
【日時】平成 30 年 11 月 17 日 (土) 13 時 30 分
【講師】松尾芳樹氏 (京都市立芸術大学芸術資料館)



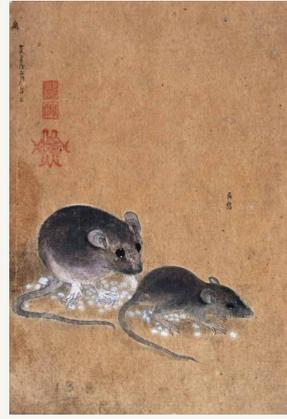
田村宗立展

～リアリティを追求した画家～

弘化3年(1846)、丹波国船井郡上河内村(現南丹市園部町船岡)で生まれた田村宗立は、安政2年(1855)、10歳の頃に南画を、翌年からは六角堂能満院の画僧・大願憲海のもとで仏画を学びました。その後、写実的な絵画に関心をもつようになった宗立は独自の陰影表現を用いた洋画の制作に取り組み、多数の作品を残しました。

明治14年(1881)からは京都府画学校の教員として、教員を退職した同22年には画塾「明治画学館」を設立して後進の指導にもあたりました。また、明治34年発足の「関西美術会」では発起人となったほか、同39年には浅井忠や伊藤快彦らと「関西美術院」を創立するなど美術界においても活発な活動を展開しています。晩年は再び日本画に戻り、墨絵で軽妙な道釈人物などを描いて余生を送り、大正7年(1918)に72歳で没しました。

平成30年(2018)は、田村宗立の没後100年にあたります。本展では、初期から晩年にかけて制作されたさまざまな作品とともに、宗立が残した足跡をたどります。また、明治絵画史における宗立の役割についても考えたいと思います。



「写生画帳(鼠)」文久2年／京都国立近代美術館蔵



「写生画帳(花)」元治元年／京都国立近代美術館蔵



「茶摘之図」明治13年頃／仁和寺蔵



「越後海岩図屏風」明治36年／京都国立近代美術館蔵



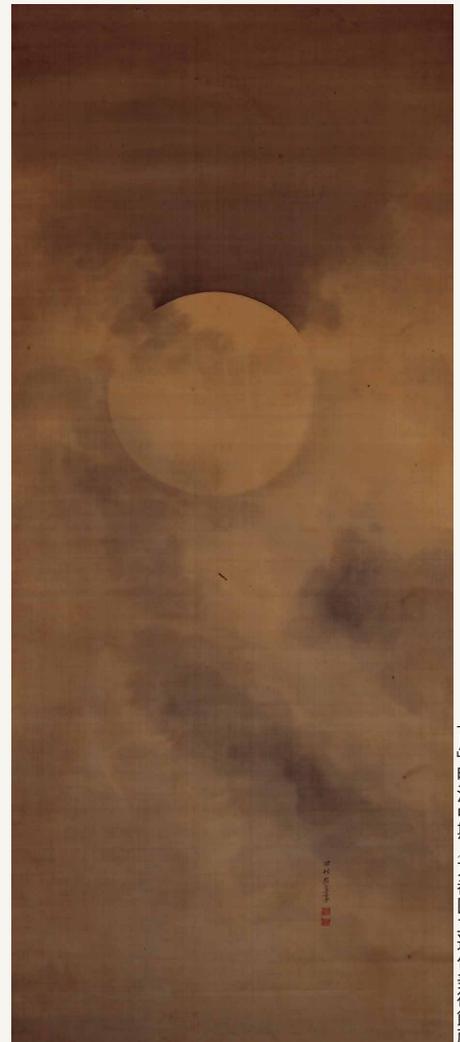
「観音図」制作年不詳／豊中不動寺蔵



「七福神図」明治31年／星野画廊蔵



「善女竜王」明治後期／京都国立博物館蔵



「月」明治中期／京都国立近代美術館蔵